特 別 指 導 フ ロ ー チ ャ ー ト（例）

特別指導とは

問題行動等を起こした生徒が、自らの行動を反省し、充実した学校生活を送ることができるよう特別に指導を行い、支援する教育活動である

Ⅰ 事実関係の把握

① 個別の事情聴取
- 当該生徒・保護者・関係生徒
- 校内外の関係者・関係機関等

② 客観的事実の整理
- 出来事と行動
- 矛盾の整理
- 把握した内容を記録

- □ 先ずは最後まで傾聴する
  傾聴している間は、指導をしない
- □ 十分に事情を確認（4W1H）する
- □ 生徒自身が事実を書く
- □ 生徒の基本的人権に十分配慮する
- □ 一人ずつ別室で対応する
- □ 各内容に矛盾がないか整理する
- □ 慎重かつ多角的に把握する
- □ 複数の教職員で対応する
- □ 生徒を一人きりにしない
- □ 確認期間を長引かせない

Ⅱ 見立てと指導目標の設定

- 指導の期間については、おおむね1週間以内を目安とするが、問題行動等の重大性や度重なる場合は、長期となる場合もある

① 関係者による会議
- 情報の確認
- 生徒の見立て
- 指導と支援の必要性
- 指導目標と方法の協議

② 職員会議
- 事実の周知と共通理解
- 指導目標と方法の確認
- 指導と支援の役割分担

③ 指導方針の決定
- 指導と支援の両面から
- 学校での反省指導
- 家庭での反省指導
- 学習保障
- 関係各機関等との連携

- □ 形式的ではなく、生徒を個々に見立てる
  （必要に応じてSC・SSWとの連携も検討する）
- □ 事実及び明確な基準に基づく指導方針を設定する
- □ 全教職員が共通理解し、協力する

見立てるポイント

事象に至るまでの要因の整理　→　事象に至った背景を探る

◆ 行動履歴等から　（冊子p.4）
ア 原因となる出来事（刺激）と現れた行動（反応）の整理
イ 欲求の見立て
- □ 支配欲から生まれる行動ではないか
- □ 不安から生まれる過剰な防衛行動ではないか
- □ 仲間に誘われての快楽的行動ではないか
- □ 注目を浴びるための行動ではないか

ウ 認知・思考の傾向　　エ 感情の見立て

◆ 個人的な素因（資質）から　（冊子p.4）
ア 愛着の形成状態　イ 言語能力　ウ 認知能力
エ 発達的な特性　オ 身体的特徴や運動能力

◆ 家族の環境から　（冊子p.5）
ア 家族構成等　イ 養育状況　ウ 家族内での心理的負担等

◆ 初発の問題行動等とライフイベントとの関係から　（冊子p.5）

◆ 問題にどのように対応してきたか　（冊子p.5）

◆ 事象を繰り返さないための要素の確認　（冊子p.5）
ア 動機付け　イ 対処スキル　ウ 自己肯定感の高低
エ 社会的サポート

Ⅲ 生徒・保護者への説明

① 事実関係と指導の説明
- 家庭訪問または来校を依頼
- 校内外の関係者・関係機関等

② 生徒・保護者の意見聴取の機会
- 意見を聴取、検討

- □ 客観的事実に基づく具体的かつ丁寧な説明を行う
- □ 指導と支援の方針及び計画（登下校時刻や学習保障等）を説明する
- □ 生徒・保護者の理解を得る
- □ 家庭での取組への協力を求める
- □ 生徒・保護者の意見は十分傾聴する
- □ 新たな事実等は再度確認する

Ⅳ 特別指導の実施

- 生徒自身が自己の起こした問題行動等を反省し、解決に向けて課題と向き合い、よりよい学校生活を送るための方法を考え、実行するよう指導と支援を行う

① 申し渡し
- 管理職により申し渡しを実施

② 指導と支援の開始
- 責任の所在を明確化
- 自己の責任についての認識
- 振り返る機会を設定し、問題点についての反省
- 問題行動等の背景にあるものへの気付きと支援
- 教育相談担当者やSCによる心のケア等再発防止に向けた指導と支援への理解
- 身に付ける必要のあるストレスマネジメントやソーシャルスキルへの気付き、自ら身に付ける意識の促進

③ 観察・評価
- 行動の反省度と指導目標の達成度を評価
- 望ましくない場合は、指導目標を再設定

④ 解除
- 校長の評価により、解除を判断

- □ 役割分担や対応の内容を事前に協議する
- □ 組織的かつ継続的な指導を行う
- □ 行為については、毅然とした態度で指導する
- □ 生徒の気持ちはしっかりと受容する
- □ 日々の様子も含め、保護者と十分な連携を行う
- □ 生徒を一人にすることなく、担任、教科担当者等が指導と支援にあたる
- □ 反省期間中の必要な学校行事等への参加を配慮する
- □ 復帰後に備えて、ホームルーム等の環境を調整する
- □ 指導目標を再設定した場合は、理解を得るまで具体的かつ丁寧に説明する
- □ 指導と支援の内容や生徒の変化について、時系列に沿って記録する

SCとの連携を検討する場合（例）（冊子p.13）
- ・衝動的である
- ・問題行動等が急に増えた
- ・対人トラブルがある
- ・冷やかされることが多い
- ・学校を休んでいる、又は、休むことが増え ている
- ・力のある生徒に従って、本来はやりたくない問題行動に加わっている
- ・嫌なことを断ることができず、周囲に合わせてしまう
- ・友達ができず、空回りしている様子が見受けられる

Ⅴ 日常生活への復帰

- 生徒がよりよい学校生活を送ることができるように、関係者それぞれの役割を再確認
- ホームルーム等において、多様な個性や様々な人間関係を見据えながら、望ましい集団・人間関係づくりを進めていく適切な指導が必要

※ 復帰後も見守り・かかわり